

山口日米協会 (y j a s) 2016 年・年次総会記念トーク

『パブリックスピーキング』とは何か？

安倍首相の米国連邦議会両院議会演説 (2015 年 4 月 29 日) を題材にして

(1) トーク開催日時・場所 2016 年 5 月 21 日、山口県立大学 3 号館 C-12 教室
(11~12:15)

(2) 開催の経緯 y j a s 読書会教材として使用した掲題英文演説を題材に、(政治討論の場を設けるという事ではなく)、日米両国の文化・歴史側面、及び国際情勢等の視点を加味しながら、『パブリックスピーキング』とは何かを共に考える機会にしようとして、対象を yjas 会員に限らず大学生・一般に拡大して、事前に英文演説原稿に目を通しての参加を募ってトークが行われました。

(3) トーク参加者

コメンテーター (2 名) :

シャルコフ (J. Robert Schalkoff) 協会副会長、県立大教授、同・国際化推進室長
ウィルソン (Amy Wilson) 理事、県立大国際文化学部教授 (アメリカ社会論)

モデレーター (司会進行) : 福永隆一理事、元 yab 山口朝日放送取締役

(4) パブリック・スピーキングとは何か? : 『その場の聴衆に会わせて、話し言葉で行うスピーチ』

①日本では、書かれた原稿を読み上げるスタイルが主ですが、概して日本人には不得意な領域、学校で教えることは先ずありません。

②一方、ウィルソン理事による冒頭の基調トークで、米国では「言葉 (スピーチ) は人生で必要不可欠なスキルとして教育の一部として認識が定着し、授業に組み込まれている。更に、分かり易く、心地よく、自信を以て簡潔で効果的にスピーチを行う為の訓練がされる。」との報告がありました。

(5) スピーチライターとは?

①スピーチライターにとって原稿執筆が仕事の全てではなく、コミュニケーション能力 (関係情報収集・関係者との調整)、及び首脳スピーチ故に参謀的役割が求められ、又、身近なエピソードを盛り込みながら、目の前の聴衆が共感できるスピーチを提供できるように万端準備を心掛ける必要があるとされます (景山洋介著「スピーチライター (角川書店)」より抜粋紹介)。

②安倍首相の海外スピーチ例、及び、スピーチライター :

「Buy my Economics /2013 年 9 月 NYSE、under control (汚染水は完全にブロックされた) :2013 年 IOC 総会、等」: 谷口智彦氏

(*谷口氏の経歴: 1957 年生まれ、東大卒・フルブライト研究生としてプリンストン大学留学、日

経ビジネス誌記者歴 20 年、第 2 次安倍内閣で官邸入・内閣審議官/内閣官房参与、慶応大大学院教授)

(6) 安倍首相の両院合同演説に沿って：トーク開始

* 両院合同総会演説は日本の総理としては初めての演説（過去の岸元総理等の演説は合同演説ではなかった）。

* 演説は、①outset(初めに)～最後の⑫Hope for the Future(未来への希望)まで全 12 のフレーズあり、時間の制約上、トークでは主にパブリックスピーキングの観点から実施された。

①Outset (初めに) ~②America and I (アメリカと私)

(モデレーター) 身近な話題（下宿の伯母さん～祖父岸信介元総理の米議会演説）に始まり, filibuster(議事妨害) という言葉まで使って、冒頭、議会人の笑いを誘っています。日本的感覚からすれば、この場で、のっけからジョークかと思いますが？

(コメンテーター) 日米文化の違いがジョークに端的に表れます。多民族国家・米国では特にジョークの重要度が高いのです。肝心な話の前には先ずジョークが鉄則とも言われます。

③American Democracy and Japan (アメリカの民主主義と日本)

(モデレーター) 首相が”私の名前はA b eで、E i g h bではないが、悪い気はしません。”と言って、米国民なら誰でも分る人物のファースト・ネームと、彼のゲチスバーグの演説を口にしますが。

(コメンテーター) リンカーン大統領は今なお米国民の精神的支柱で、この演説は正に戦没者への鎮魂歌、米国民全体が厳粛な気持ちになる瞬間です。この場を追悼モードに一転させる絶大な効果を期待して周到に準備されたスピーチです。

④World War Memorial ~⑤L a t e E n e m y , P r e s e n t F r i e n d (かつての敵、今日の友) ~⑥A m e r i c a and Post-War Japan (アメリカと戦後日本)

(モデレーター) 「第二次大戦米国戦没者に対し、深い敬意をもって、とこしえの哀悼を捧げます」と表現し、典型的和解のシーン（硫黄島で戦った米国将軍と日本人守備隊長の孫の握手場面）が演出され、この後で「Late Enemy、Present Friend」と結んでいます。この際に会場で議員から起立・拍手が発生しました。演出されたシーンで、事前に演説原稿まで配布されていますが、下院議長とおぼしき人物が涙をぬぐうシーンもありました。深い悔悟 (deep repentance) に加え、痛切な反省 (deep remorse) という言葉も使用されますが、この大変分かり易いシーンが米国議会人の心を打ったと言えるのでしょうか？「我々の行為がアジア諸国の国民に苦痛を与えた。この事から目を逸らせてはならない」と演説にあります。(解説) ; 但し、ここでは強制労働や所謂慰安婦問題に対する具体的表現や、村山談話で使用された心からのお詫び (heartfelt apology) の言葉は無く、更に、訪米直前に下院議員 25 名提出の要望書（歴史問題に言及して癒しと謙虚な和解を望む）に直接答える方法は採っていません。）前日の首脳会

談後の記者会見では河野談話を堅持して見直しの意図無しとの表明をした上で、議会演説のスピーチの場では「見解は歴代総理と同じ (uphold the views expressed by the previous prime ministers)」と発言をして会場では再度議会人より起立・拍手が起こりました。

(コメンテーター) 理解しやすい演出も確かに必要ですが、uphold the views というだけで議会人に意図が伝わり、理解を示す起立・拍手が起こったというより (上院議員要望書にあったように、元来関心の高い部分であっただけに)、両国政府間で事前に綿密な分析・検討がされ、意見交換・調整済であり、共に成功させるべき演説であった事を窺わせます。(これはパブリック スピーチの要諦でもあり、スピーチ全体に係わることです。)

(モデレーター) 靖国参拝で先に自ら引き起こした米政権との軋轢 (オバマ大統領から”失望した!”との指摘があった) を拭い去り、首相の過去の言動・歴史認識にふたをしたような表明ですが、これは、先ずは米国政権との友好関係の修復と強化を計り、自らの国内政治基盤を盤石化することこそ、自分が理想とする”美しい国造り”に邁進できる一番の近道であるとの思いがあるからと言われています。

⑦TPP, ⑧Reforms for a Stronger Japan (強い日本へ、改革あるのみ)

(モデレーター) 通商面の同盟強化は (安保法制整備と併せて) 安全保障手段確保の為の車の両輪の一つですが、T P Pを通じ日米共通の価値観 (自由・平等・法の支配) を謳いあげ、起立・拍手を受ける場面がありました。双方共に困難で微妙な問題 (国内産業保護) を抱える中で、日本では1年後の本年4月の九州中部地震の結果、国会決議先送りとなり、視界不良となりました。米国の状況、当時と今では?

(コメンテーター) オバマ政権も (国際情勢の変化を背景に) 日米連携の強化を図りながら、米国主導のリーダーシップ再構築を目指してT P P参加推進に賛同しました。しかし、1年後の現在では、次期大統領選挙争点の一つとなり、反対意見が民主・共和両党候補共に根強く、選挙期間中の議会通過は難しい状況です。ここ⑧は米国マスメディアの評価が概して低かった部分です。日本の経済的役割の期待の大きさに対し、首相の演説内容が乏しかった (具体性の乏しい一億総活躍社会・中途半端な農業改革 (農協改革)・人口減少問題の対処、等) との評価によるものです。

⑨Post War Peace and Japan's Choice、⑩The Alliance : its mission for Region (地域における同盟のミッション)

(モデレーター) ⑩の要点は、☆米国の政策を徹頭徹尾支持する☆米国と歴史的な防衛協力・ガイドラインを新たに合意した (the new Defense Cooperation Guidelines …we agreed on a document that is historic.)。☆ (これから) 日本国内法整備を急ぐ (enhance the legislative foundations…) 等ですが、これら合意は日本国内に先駆けて米議会で表明・約束された部分で、(米国現政権の評価は別にして) 日本国内では賛否に強弱有っても、何れも事前説明不足を指摘する声が圧倒的で、国会・国

民軽視と大きな議論を引き起こしました。憲法解釈の変更と併せて、この後の安保諸法制（自衛隊法・PKO協力法・周辺事態法・武力攻撃事態法・特定機密保護法等）の成立（2ヵ月半後の7月16日衆院本会議通過）・施行（翌・今年2016年3月29日）までの経過を追えば順序が真逆なのが分かります。

（コメンテーター）そうですね、米国側の評価は高かったのですが、ここではコメントに替えてN. Y. Timesの記事（2015年7月20日）の紹介をしてみます。『民主主義のリーダーたるものは、有権者を説得し、賛意を確実に得る手順を踏まねばならないのではあるまいか』。即ち、立憲主義の原則に立ち返って、真摯に議論が尽くされることこそ、日米両国の国益に適うというものでしょうね。

⑪Japan 's New Banner（日本が掲げる新しい旗）

（モデレーター）女性の人権について、（所謂慰安婦問題を言外に踏まえながら）、女性の人権が米国（或いは先進諸国）において最優先課題であることを念頭に、これが侵されない世の中実現を目指すと言った際に、再度、起立・拍手を迎えました。更に、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」を提唱した上で、「同盟は、我々が常に、法の支配、人権尊重、そして自由を尊ぶ価値観を共有する結びつきです」と謳いあげました。米国の建国の精神とされるこれらの価値観でもありますが、米国では現在に至るまでどのように生かされているのでしょうか。両国で認識のギャップが果たして存在するのでしょうか？

（コメンテーター）米国の歴史（メイフラワー盟約（1620年）～独立宣言（1776年）～合衆国憲法（1787年）～権利章典（1791年）～南北戦争・奴隷解放令（1862年）～公民権法案（1864年）～ウォーターゲート事件（1974年）等）を通じて、培った歴史が脈々と繋がっています。日本のメディアで、例えば日本の閉鎖的な記者クラブ制度にあるように、日本の人権・国民の知る権利・報道の自由の諸点で相当にギャップがあり、未成熟との指摘あることは承知しています。（一般論ですが）文化・歴史に根差した違いの他にも、現政治体制（大統領制・議員内閣制、日本の小選挙区制度等）の違いも影響しているかと思えます。

⑫Hope for the Future（未来への希望）

（モデレーター）スピーチの最終場面で、「米国が世界に与える最善の資産は、過去・現在・未来ともに”希望”であらねばならない」。リンカーン大統領のゲティスバーグ演説の響きを持つ表現ですが、「let us call the U.S.-Japan alliance, an alliance of hope（日米同盟、希望の同盟と呼ぼう）」と呼びかけて演説が終了しました。

（7）トークの終わりに（総括）

（ウィルソン理事）パブリックスピーチの構成や採点項目をチェックしていくと、首相演説はレベルが高く、出来が良くて、相応な合格点を差し上げたい。ジョークや

元大統領の演説の引用もこの場の聴衆（議会人）の心にポジティブに届いたと思います。スピーチライター及び日本政府関係者が、米国政権と事前に綿密な調整・意向確認作業等行いながらシナリオを作り上げたことが推察されます。このように、スピーチの裏側にはスピーチライターの役割と存在がある事が十分にお分かりいただけたのではないのでしょうか。

（シャルコフ副会長）「痛烈な反省」と「戦没米兵への鎮魂」、そして（慰安婦問題に関しては）女性の人権問題に関する発言を通じて、（アジア諸国への侵略戦争・植民地支配に関する）歴代日本首相の見解を踏襲するとの表明によって、米国議会人の心を打ち、人権問題に厳しい民主党政府（オバマ大統領・バイデン副大統領）が一応の納得をしたのではないのでしょうか。

同時に、米国政府としても、中国の台頭や北朝鮮の脅威増の国際情勢の変化を受けて、日米関係強化が米国の利益にかなうとして、政治的に決着したとして幕引きをしたものと思われまます。

（モデレーター：福永理事）

有難うございました。参考情報ですが、この問題（戦争認識と慰安婦問題）について、日米両国政府間で決着を見たという事は、首脳会談後の米 국무省定例会見における韓国人記者の質問に対して、これ以上付け加えるものは無いとの 국무省対応からも理解ができます。

『今後の課題』ですが、今回日米間の幕引きとなった大前提、即ち、（過去の言動・歴史認識にふたをして）両院議員総会演説で表明した”歴代首相の見解を踏襲する”とした首相の「歴史認識」が再びぶれないこと、更に、両国幕引きが契機となって、米国政府の後押しもあって昨年末（2015年12月28日）日韓両国政府間で「最終的かつ不可逆的な解決を確認した」慰安婦合意ですが、二度と問題が蒸し返されてはならないということでありましょう。

本日は難しい内容を題材としながら、パブリックスピーキングについて短時間ながらトークが実現出来ました。皆様、ご参加頂き、誠に有難うございました。